

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 30 年 8 月 31 日

施策	No. 10	快適で暮らしやすい生活環境づくり						
施策 主管課	下水道課	氏名	鈴木寿明	施策 関係課	企画課、市民活動支援課、土木課、管理総務課、業務課、水道課			

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇市民	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 笛吹市の人口<4月1日現在> 人
	b
	c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇水路、上下水道、住宅など、日常生活に欠かせない社会基盤が整備され便利に暮らすことができる。 ◇公営温泉、市営住宅などが整備され、豊かで質の高い暮らしを送ることができる。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 有収率 %
	e 市営住宅入居世帯数 世帯
	f 市営温泉市民利用数 人
	g 下水道普及率 %
	h 水洗化率 %
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇生活の快適さや豊かさを、市営住宅入居世帯数、市営温泉利用度、下水道普及率、水洗化率で判断する。 ◇水の安定供給について、水道配水管からの漏水等で減少する有収率を指標として設定する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇有収率、下水道普及率、水洗化率は公営企業部データ。◇市営住宅入居世帯数は建設部管理総務課データ◇市営温泉利用度:まちづくり基礎調査の中止につき平成26年度より市民の市営温泉利用者数に変更

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、決算	29年度 最終目標	
対象 指標	a 笛吹市の人口<4月1日現在>	人	見込み値 72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	
			実績値 72,192	72,145	71,724	71,132	70,749	70,559	69,861	
	b		見込み値							
成果 指標	d 有収率	%	成り行き値	75.0	74.8	74.6	74.4	74.2	74.0	
			目標値	77.0	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	
			実績値	75.1	80.6	80.2	81.3	79.8	80.0	79.7
	e 市営住宅入居世帯数	世帯	成り行き値	330	330	330	330	330	330	330
			目標値	330	330	340	350	370	380	
			実績値	329	329	321	308	307	291	275
	f 市営温泉市民利用数	人	成り行き値	37	37	39	338,250	338,250	338,250	338,250
			目標値	41	42	40.0(346,000)	354,000	362,000	370,000	378,000
			実績値	39	39.1(338,250)	38.2(334,652)	354,813	354,661	345,034	393,980
	g 下水道普及率	%	成り行き値	58.9	58.9	58.9	58.9	58.9	58.9	58.9
			目標値	58.9	59.7	60.0	60.3	60.6	60.9	
			実績値	58.8	59.4	60.6	61.0	62.8	64.8	65.8
h 水洗化率	%	成り行き値	83.7	83.7	83.7	83.7	83.7	83.7	83.7	
		目標値	83.7	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0		
		実績値	82.7	85.0	85.4	87.3	87.0	85.7	87.4	
施策コスト	事務事業数		本		31	31	36	39	20	
	事業費 (A)		千円	7,417,669	9,270,613	3,304,357	2,609,911	2,399,153	2,314,956	
	うち一般財源 (A')		千円	5,274,208	7,177,370	2,721,424	1,980,356	892,534	1,191,153	2,072,237
	人件費 (B)		千円	266,858	259,829	265,159	273,379	252,199	214,803	241,970
	トータルコスト (A+B) (C)		千円	7,684,527	9,530,442	3,569,516	2,883,290	2,651,352	2,520,939	2,556,926
コストの合計		うち一財 (A'+B) (C')	千円	5,541,066	7,437,199	2,986,583	2,253,735	1,144,733	1,405,956	2,314,207

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

◇有収率:成り行き値は、H23年度実績値を基に毎年0.2ポイント減少で設定。目標値は、H23年度実績を基にH25年度から毎年1ポイントの増
◇市営住宅入居世帯数:成り行き値は、H23年度実績を維持で設定。目標値は住宅マスタープランH32年度までに400世帯の目標からH29年度までに380世帯となるよう設定
◇市営温泉利用度:成り行き値は、H23年度実績値を維持とした。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度から毎年0.5ポイント増で設定していたがまちづくり基礎調査の中止につき平成26年度より市民の市営温泉利用者数に変更
◇市営温泉市民利用数:成り行き値は、H24年度実績値を継続とした。目標値は、平成24年度の実績に毎年約8千人増にて設定した。
◇下水道普及率:成り行き値は、H23年度実績値程度で推移するとして。目標値は、H23年度実績を基にH25年度から毎年0.3ポイントの増で設定(下水道健全化計画による。)◇水洗化率:成り行き値は、H23年度実績値に1ポイント増で設定。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度から毎年1ポイント増で設定

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇道路、水路の維持管理(清掃)を行う。 ◇下水道供用開始地区の住民は、負担金を納め、下水道につながる。 ◇下水道利用者は下水道使用料金を納める。 ◇浄化槽利用者は浄化槽を管理する。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇道路、水路の維持管理(清掃)を行う。 ◇下水道供用開始地区の住民は、負担金を納め、下水道に繋ぐ。 ◇下水道利用者は下水道使用料金を納める。 ◇浄化槽利用者は浄化槽を管理する。
--	--

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

<p>◇市営温泉の指定管理者制度導入は、H26年度より2施設となった。◇H26年度、御坂浄水場が完成し、広瀬ダムのダム水も利用できるようになった。</p> <p>◇H27年度に下水道加入員を雇用し、未接続の家庭に直接接続の依頼を実施し、水洗化率が向上した。</p> <p>◇なごみの湯については、福祉施設として使用しているため、H27年度に所管を、市民活動支援課から福祉総務課に変更した。</p> <p>◇H28年度、下水道受益者負担金の取納率向上のため、徴収員1名を採用した。</p>	<p>◇生活道路・水路を整備して欲しいとの要望がある。</p> <p>◇温泉施設にバスが巡回するようになって便利になったという声がある。</p> <p>◇監査委員より漏水について対策を講じるよう指摘がある。</p> <p>◇市民から、下水道の加入促進を図るべきとの意見がある。</p> <p>◇議会等から老朽化した公営住宅への対応を求められている。</p>
---	--

2. H29年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標値より高い実績値だった</li> <li>○ 目標値どおりの実績値だった</li> <li>● 目標値より低い実績値だった</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇下水道普及率は、目標値60.9%に対し、実績値は65.8%と高い数値であった。(計画的に事業を推進している結果)</p> <p>◇水洗化率は、目標値90.0%に対し、実績値87.4%と若干目標値より低い数値であった。(本管布設により、接続可能区域が広がったため)</p> <p>◇市営温泉市民利用数は、目標値370,800人に対し、実績値は39,398人と高い数値であった。</p> <p>◇市営住宅入居世帯数は目標値380世帯に対し275世帯と低い数値であった。(老朽化した住宅の募集停止と四日市場団地建替え事業に伴うものである。)</p> <p>◇水道有収率は、目標値85.0%に対して、実績値は79.7%と低い数値であった。(大規模な漏水が原因と考えられる。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果がかなり向上した</li> <li>○ 成果がどちらかと言えば向上した</li> <li>● 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</li> <li>○ 成果がどちらかと言えば低下した</li> <li>○ 成果がかなり低下した</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇下水道普及率は、H27年度62.8%、H28年度64.6%、H29年度65.8%と向上している。(計画的に事業を推進している結果)</p> <p>◇水洗化率は、H27年度87.0%、H28年度85.7%、H29年度87.4%と横ばいの状態である。(本管布設により、接続可能区域が広がったため一時的に下がった。)</p> <p>◇市営温泉市民利用数は、H27年度354,661人、H28年度345,034人と減少している。H29年度は393,980人と増加し回復できた。</p> <p>◇市営住宅入居世帯は過去3年307世帯から275世帯と減少傾向である。これは、老朽化した住宅の募集停止と四日市場団地建替え事業に伴うものである。</p> <p>◇水道有収率は、H27年度79.8%、H28年度80.0%、H29年度79.7%であった。(H29年度はH28年度より、0.3%下がったが、大規模な漏水が減っていないことが要因と考えられる。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</li> <li>● 他自治体と比べてほぼ同水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</li> </ul> <p>比較自治体名</p> <p>南アルプス市、甲斐市</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇下水道普及率で比較すると、笛吹市65.8%、南ア市47.4%、甲斐市74.3%と他市と同水準となっている。(山梨県平均は65.3%) (H29.3末)</p> <p>◇水洗化率は、笛吹市87.4%、南ア市86.7%、甲斐市85.6%と他市とほぼ同水準となっている。(山梨県平均は88.7%) (H29.3末)</p> <p>◇平成29年度の市営温泉市民利用数は、笛吹市(3施設)393,980人、南アルプス市(4施設)304,612人(市外利用者も含む)、甲斐市(3施設)245,484人と他市よりやや高めとなっている。</p> <p>◇市営住宅の管理戸数は、笛吹市が354戸であり、南ア市642戸、甲斐市263戸と他市とほぼ同水準となっている。</p> <p>◇水道有収率は、笛吹市79.7%、南ア市78.0%、甲斐市86.5%となっている。いずれも前年度と比較して、他市とほぼ同水準である。</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 笛吹市の人口(4月1日現在)	(単位)	27年度	28年度	29年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目 a)	人	70,749	70,559	69,861	◇施策全体の実績は、大きく上昇していないが着実に上がっている項目もあり、コストの増加を抑えながら、一定の成果を挙げることができている。しかし、実績が低い項目もあり、効率性という面では、更に向上させる必要がある。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A/D)	円	33,911	32,684	33,137	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B/D)	円	3,565	3,044	3,464	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C/D)	円	37,475	35,728	36,600	

3.最終的な施策の総括 Action

(1)達成状況の分析(理由と改善点)

<p>◇公共下水道整備事業において下水道整備を進め、河川の水質浄化に努めてきたが、経営健全化が課題になっており、H21年度から計画の見直しを行っている。さらに健全化に向けては、使用料並びに受益者負担金徴収事業において、H30年度使用料の料金改定を行ったほか、徴収率向上に向けて取り組んでいる。国の要請により、汚水処理のアクションプランを作成し、県と連携を図り、市の下水道全体計画区域を平成32年度に峡東流域下水道計画の見直しに合わせて、浄化槽による処理区域と下水道による処理区域の区域検討を行なっていく必要がある。</p> <p>◇供用開始となった地域の下水道加入率を高める必要があるため、下水道の必要性についての啓発活動を行っていく必要がある。</p> <p>◇市営温泉施設は、建設時期が概ね同時期であり経年劣化につき維持管理(修繕費)が年々増加している現状となっている。</p> <p>◇引き続き生活道路(市道)・水路の整備を進めていく必要があるが、道路延長の増加に伴って維持管理経費がかさむことから計画的な整備や改修が求められている。</p> <p>◇市営住宅については、平成28年度に「笛吹市営住宅長寿命化計画」の改定を行った。この計画に基づき維持改修を行っていく。</p> <p>◇有収水量のアップを図るとともに、漏水等の無駄な配水を減少させ有収率の向上を図る必要がある。</p> <p>◇有収率を上げるには、漏水が発生しやすい老朽管路の更新を計画的に行うことと、漏水箇所の早期発見、早期修繕を行なうことが重要であると考えている。今後も厳しい財政状況の中、計画的な管路更新と修繕事業を進めていく必要がある。</p>
--